

(様式第9)

川学法第504号
平成23年10月3日

厚生労働大臣 殿

川崎医科大学附属病院
学校法人 川崎学園
理事長 川崎明

川崎医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関する報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照（様式第10）
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照（様式第11）
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	78人
--------	-----

（注）前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

→ 別紙参照（様式第12）

- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績

→ 別紙参照（様式第13）

- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	427人	17人	429.8人	看護補助者	115人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	5人	1人	5.2人	理学療法士	36人	臨床検査技師	80人
薬剤師	33人	0人	33.0人	作業療法士	33人	衛生検査技師	0人
保健師	6人	0人	6.0人	視能訓練士	12人	検査その他	0人
助産師	6人	3人	7.2人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	737人	24人	750.7人	臨床工学技士	14人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	1人	0人	1.0人	栄養士	2人	その他の技術員	30人
歯科衛生士	3人	0人	3.0人	歯科技工士	0人	事務職員	122人
管理栄養士	29人	0人	29.0人	診療放射線技師	39人	その他の職員	29人

（注）1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	682.3人	7.1人	689.4人
1日当たり平均外来患者数	1,687.6人	51.2人	1,738.8人
1日当たり平均調剤数		3,038.6剤	

（注）1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の24時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法はCD-DST法)	0人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	2人
自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	91人
内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	14人
末梢血幹細胞による血管再生治療	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
該当なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	抗CD25抗体併用がんワクチン	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要			
がんワクチンの開発研究を実施している。癌免疫の抵抗勢力である制御性T細胞を抗CD25抗体で抑制できる基礎研究に基づき、がんワクチンに抗CD25抗体を併用する臨床試験を実施している。(臨床腫瘍科)			
医療技術名	進行非小細胞肺がんに対するペプチド・ワクチン療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
がん特異的に発現するがん精巣抗原を抗原にした免疫療法である。がん精巣抗原のNY-ESO-1を発現する進行肺がん患者を対象に、NY-ESO-1ペプチドをアジュバントと共に接種し、がん特異的な細胞障害性T細胞を誘導する方法である。現在、全国数施設で臨床試験を実施している。(呼吸器内科)			
医療技術名	気管内治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
悪性および良性疾患による気道狭窄や気管瘻に対して全身麻酔下に腫瘍の切除やステントを留置し気道を確保するものである。22年度は肺癌再発による気道狭窄に対して腫瘍焼却を1例に、ステント留置を1例に実施した。(呼吸器外科)			
医療技術名	間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
間質性膀胱炎は蓄尿時の膀胱痛および頻尿を主症状とする疾患である。近年その患者数は増加傾向にあるが有効な診断法、治療法がないのが現状である。唯一その中で、診断と治療を兼ねた方法が腰椎麻酔下の水圧拡張術である。(泌尿器科)			
医療技術名	難治性過活動膀胱に対するボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
薬剤抵抗性の切迫性尿失禁患者の膀胱壁に内視鏡を用いてA型ボツリヌス毒素を注入し、排尿筋過活動に伴う尿失禁を治療することを目的とする。(泌尿器科)			
医療技術名	前立腺癌に対する腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要			
局所限局性前立腺癌に根治的治療である前立腺全摘除術を腹腔鏡下で行い、低侵襲性と拡大視野による良好な制癌効果が期待できる。(泌尿器科)			
医療技術名	腎細胞癌に対する腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
小径の早期腎細胞癌に対して腹腔鏡下腎部分切除術を行うことで腎温存と低侵襲性の両方が期待できる。(泌尿器科)			
医療技術名	赤血球膜異常症の病因解析、遺伝子診断	取扱患者数	52人
当該医療技術の概要			
赤血球膜異常症の病因解析において、走査電顕を用いた赤血球形態診断、膜蛋白分析、当該遺伝子解析を行い、病因の診断、治療選択に有効であった。(血液内科)			

医療技術名	HIV-1の遺伝子診断	取扱患者数	64人
当該医療技術の概要			
TaqMan法を用いてHIV RNA量を測定することにより、抗HIV薬の薬剤効果の観察、病態把握に有用であった。(血液内科)			
医療技術名	白血病・リンパ腫関連遺伝子診断	取扱患者数	82人
当該医療技術の概要			
RT-nested PCR 法により、微小残存白血病細胞の検出を行い、臨床的な寛解の判定や再発の早期診断に有効であった。(血液内科)			
医療技術名	脂質異常症における遺伝子診断	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
脂質異常症の病因検索として、患者の遺伝子解析を行い、診断・治療に役立てる。(糖尿病・代謝・内分泌内科)			
医療技術名	1型糖尿病におけるHLAの解析診断	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要			
1型糖尿病・劇症型糖尿病の診断補助として、HLA(組織適合抗原)の解析を行い、正確な診断を下すとともに、インスリン強化療法の早期導入に役立てる。(糖尿病・代謝・内分泌内科)			
医療技術名	経頭蓋的磁気刺激法による脳神経機能診断	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要			
経頭蓋的磁気刺激法は、非侵襲的に錐体路の機能を評価する方法であり、多発性硬化症や神経変性疾患等の診断に有用である。(神経内科)			
医療技術名	単一筋線維筋電図による神經・筋疾患の診断	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
単一筋線維筋電図は、神経接合部における伝達障害の最も感度の高い検査法であり、重症筋無力症の診断に有用である。(神経内科)			
医療技術名	遺伝性神經・筋疾患の遺伝子診断	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要			
筋ジストロフィー、遺伝性ニューロパチー、神経変性疾患(脊髄小脳変性症、パーキンソン病)を対象として、FISH法、サザンプロット法、PCR法等による遺伝子診断を行う。(神経内科)			
医療技術名	眼瞼痙攣、瘓性斜頸に対するボツリヌス治療	取扱患者数	83人
当該医療技術の概要			
眼瞼痙攣、Meige症候群、瘓性斜頸を対象として、ボツリヌス毒素の局所注射による治療を行っている。(神経内科)			
医療技術名	神經変性疾患に対する経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要			
パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの神經難病を対象として、神經細胞に磁気刺激を与えることにより、神經機能の改善をはかる治療法。(神経内科)			
医療技術名	修正型電気けいれん療法(modified electroconvulsive therapy:ECT)	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
修正型電気けいれん療法は、全身管理下で麻酔薬と筋弛緩薬を用い充分な酸素投与下で行われるもので、重症のうつ状態、統合失調症、などが適応となる。特に薬物の奏功しがたい難治性うつ、昏迷状態、高齢者、などが主な対象である。当院では、カンファレンスで適応症例の判定を行い、麻酔科の協力の下、手術室を用いて、安全性に配慮して本法(mECT)を施行している。(心療科)			

医療技術名	クラミジア、マイコプラズマのreal-time PCR	取扱患者数	150人
当該医療技術の概要			
喀痰、鼻咽頭ぬぐい液や膿液を検体として、クラミジア、マイコプラズマのreal-time PCRを用いて、培養が難しいこれらの微生物の原因検索を行っている。全国からも1年間で約300検体の測定依頼がある。(小児科)			
医療技術名	マイコプラズマの耐性遺伝子の検索	取扱患者数	150人
当該医療技術の概要			
喀痰、鼻咽頭ぬぐい液を検体として近年耐性化が問題となっているマイコプラズマのマクロライド耐性遺伝子の検索を行っている。全国からも1年間で約300検体の測定依頼がある。(小児科)			
医療技術名	マイコプラズマの培養と薬剤感受性試験	取扱患者数	150人
当該医療技術の概要			
喀痰、鼻咽頭ぬぐい液や膿液を検体として、マイコプラズマの培養を行い、さらに薬剤感受性試験を行っている。全国からも1年間で約300検体の測定依頼がある。(小児科)			
医療技術名	ヘルペスウイルスのreal-time PCR	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
突発性難聴などの病態を解明するために、ヘルペスウイルス(サイトメガロウイルス、単純ヘルペスウイルス、水痘帯状疱疹ウイルス)の原因検索を行っている。(小児科)			
医療技術名	呼気NO測定	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要			
喘息のコントロールに呼気中NO値を測定し、喘息のステップアップやステップダウンの指標とし、良好な治療効果を得ている。(小児科)			
医療技術名	腹腔鏡下外鼠径ヘルニア修復術	取扱患者数	76人
当該医療技術の概要			
腹腔鏡を用いて内鼠径輪のヘルニア門に体外から糸をかけ、腹膜外にヘルニア門を結紮する手術。低侵襲であり、術後の回復が早い。(小児外科)			
医療技術名	腹腔鏡下幽門筋切開手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
新生児期に発症する疾患であり、体格が小さいため腹腔鏡下の手術は難しい。幽門筋切開を鏡視下に行うことで傷が小さく、術後の回復が早い。(小児外科)			
医療技術名	胸腔鏡下胸骨挙上術	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要			
漏斗胸に対して胸腔鏡を用い、胸骨を挙上する手術である。低侵襲であり、胸部の正面に傷が残らないため、整容的に非常に良好である。(小児外科)			
医療技術名	乳癌に対するセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	133人
当該医療技術の概要			
乳癌腫瘍の近傍および乳輪部皮下に色素およびフチン酸コロイドを注入し、センチネルリンパ節を同定し、腋窩郭清の省略を目指す術式。(乳腺甲状腺外科)			
医療技術名	乳癌に対する皮下乳腺全摘+ティッシュ・エクスパンダー充填術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
広範な乳管内の癌進展のために乳房温存が不可能な症例に対し、乳房の整容性を保つための術式。(乳腺甲状腺外科)			

医療技術名	自己血回収器具を用いた術中自己血回収	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
術中に自己血回収器具を使用し出血を回収。無菌的に小型遠心式洗浄器を用いて赤血球を集積、洗浄し赤血球濃厚液として回収。これを自己血として使用する。(整形外科)			
医療技術名	術後回収式自己血輸血法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
手術終了後、創部ドレーンからの流出血液を抗凝固性及び赤血球保護作用のある液体と混合。これを無菌的に小型遠心式洗浄器を用いて、赤血球のみを集積、洗浄し、赤血球濃厚液として回収。これを自己血輸血として使用する。(整形外科)			
医療技術名	インストルメンテーションを用いた脊柱再建術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要			
変形性脊椎疾患、脊椎の外傷、転移性脊椎腫瘍に対してインストルメンテーションを用いて脊椎再建術を行なう。変形矯正とともに強固な固定が得られ、早期離床が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	内視鏡視下脊椎手術	取扱患者数	95人
当該医療技術の概要			
内視鏡視下手術手技を用いて、後方進入腰椎椎間板ヘルニア摘出術、腰椎椎弓切除術、頸椎椎弓切除術を行なう。この方法は最小侵襲手術手技であり、神経合併症を回避することができ、早期の離床及び社会復帰が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	内視鏡視下脊椎前方固定術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
内視鏡視下手術手技を用いて、胸腰椎前方固定を行なう。この方法は最小侵襲手術手技であり、神経合併症を回避することができ、早期の離床及び社会復帰が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	経皮的椎間板摘出器具による脊椎炎持続洗浄療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
化膿性脊椎炎に対して、経皮的に病巣搔爬し、持続洗浄を行なう。この方法は最小侵襲手術であり、早期離床が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	脊髓誘発電位測定	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要			
脊椎・脊髄の手術において脊髓誘発電位をモニタリングすることで安全に手術が行なえる。(整形外科)			
医療技術名	切断指(趾)に対する顕微鏡視下手術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要			
手指の組織欠損、足趾欠損に対して、顕微鏡視下でしか確認できない指動静脈や指神経を吻合、縫合し、再接着を行い、本来の指趾機能を回復させる。(整形外科)			
医療技術名	関節鏡視下手術	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要			
関節鏡を用いて股関節唇障害や膝半月板損傷、棚障害、関節鼠に対して、鏡視下に縫合術や切除・摘出術を行なう。さらに関節内骨折に対する整復固定術や韌帯再建術も関節鏡視下に行なう。侵襲が少なく、術後の機能回復が早い。(整形外科)			
医療技術名	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	取扱患者数	120人
当該医療技術の概要			
術前に骨盤から足までのCTを撮影し、それを3次元的に再構築したうえで、術前計画を行う。その後に人工股関節置換術をナビゲーションを用いて施行する。(整形外科)			

医療技術名	マイクロサーボジャリーを利用した各種血管柄付き自家複合組織移植	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
マイクロサーボジャリーの技術を用いて、全身の組織欠損に対してさまざまな血管柄付き複合組織移植術を行った。(形成外科・美容外科)			
医療技術名	口唇顎口蓋裂に対する集学的治療	取扱患者数	120人
当該医療技術の概要			
口唇顎口蓋裂患者に対し、形成外科、耳鼻科、矯正歯科、言語療法士らによる集学的治療を行った。(形成外科・美容外科)			
医療技術名	小耳症に対する自家肋軟骨移植術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
小耳症患者に対し、自家肋軟骨移植術を行い、良好な耳介の再建を行った。(形成外科・美容外科)			
医療技術名	顔面多発骨折に対する観血的整復固定術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
顔面多発骨折に対し、咬合、開口、眼球運動機能の改善と、整容的な改善を行った。(形成外科・美容外科)			
医療技術名	外傷性脳損傷による高次脳機能障害に対する包括的リハビリテーション	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要			
外傷性脳損傷による高次脳機能障害に対して、急性期リハビリテーションアプローチを行い、回復期・生活期には記憶障害・注意障害・遂行機能障害を中心とする高次脳機能障害に対する学習訓練プログラム、さらに集団訓練を実施した。医師の指導の下で、コメディカルによる包括的アプローチが有効で、社会復帰と家族支援に取り組んできた。(リハビリテーション科)			
医療技術名	客観的診断に基づく嚥下障害者への包括的リハビリテーション	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要			
脳血管障害をはじめとする嚥下障害患者に対して、嚥下造影検査ならびに嚥下内視鏡検査を行い、安全な摂食姿勢や誤嚥を生じにくい食品形態を選択し、治療手段と訓練方法を決定した。科学的診断によって安全かつ有効なリハビリテーション医療を計画し、多職種連携による包括的なチーム医療を遂行した。(リハビリテーション科)			
医療技術名	発達障害を伴う言語発達障害児への包括的リハビリテーション	取扱患者数	250人
当該医療技術の概要			
自閉症や注意欠陥多動障害を含む広汎性発達障害児、発達性言語遅滞、知的障害児、学習障害児、特異的言語発達遅滞など、言語発達の遅れを主訴とする患児に対して、多面的な治療手段を行った。遊びを取り入れた言語治療と感覚統合を主体とする作業療法、リハビリテーション医による親子相談、小児科との連携による薬物療法、保育施設との連携による療育の充実など、包括的チームアプローチを推進することによって、社会性の育成とコミュニケーション手段の獲得に			
医療技術名	高度痙攣に対する神経ブロック	取扱患者数	120人
当該医療技術の概要			
脳卒中や脳性麻痺、脊髄損傷などの中枢神経障害に伴う高度痙攣に対して、歩行機能やADLの改善を目指してブロック療法を行った。体表からの通電手技により運動点を探索し、同部に電極針を刺入して神經破壊剤またはボツリヌス毒素を注入するという特殊治療法で、痙攣を弱めることで歩行能力と日常生活動作の改善が得られた。(リハビリテーション科)			
医療技術名	輪状咽頭筋弛緩不全に対するボツリヌス毒素を用いた嚥下障害治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
延髄外側症候群をはじめとする嚥下障害のうち輪状咽頭筋弛緩不全を呈する患者に、ボツリヌス毒素を用いた輪状咽頭筋ブロックを施行した。輪状咽頭筋を弛緩させることによって、嚥下障害の著しい改善が得られ、摂食能が可能となった。本治療法が輪状咽頭筋弛緩不全の患者に有効であることが確認された。(リハビリテーション科)			
医療技術名	RIを用いた口腔癌の頸部センチネルリンパ節生検	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
口腔扁平上皮癌に対し、潜在性リンパ節転移を発見し、予防的頸部郭清術による障害を減らす目的で行う。原発腫瘍の周囲粘膜下に ^{99m} Tcチニ酸を注入し、リンパ節シンチグラムを撮像し、リンパ流を確認する。プローブを用いてセンチネルリンパ節を同定、生検を行う。(口腔外科)			

医療技術名	口腔癌に対する超選択的動注療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
浅側頭動脈からカテーテルを挿入し、腫瘍の栄養血管を超選択的に同定し、このカテーテルを固定し持続的に抗癌剤を動脈内に持続的に注入し、放射線照射を併用してセルジンガー法による動注療法よりも高いCR率が得られる。(口腔外科)			
医療技術名	骨増生法を併用した顎骨インプラント義歯治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
高度な骨吸収を伴った顎骨に対し、自家骨移植による骨増生を図り同時にチタンインプラントを植立してインプラント義歯を作製する。(口腔外科)			
医療技術名	橈骨動脈アプローチによる血管造影および血管内治療	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要			
腹部・骨盤部・下肢のカテーテル的血管造影・血管内治療は大腿動脈アプローチが主流だが、橈骨動脈アプローチにより深部静脈血栓症の合併低下や術後早期離床など低侵襲治療につながる。(放射線科(画像診断))			
医療技術名	頭頸部癌に対する超選択的動注化学療法	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要			
頭頸部癌に対し、カテーテルを用いて超選択的に腫瘍栄養血管へ抗癌剤を動脈内投与することで、咽喉頭を温存しつつ治療する。放射線照射や全身化学療法を併用することで、咽喉頭切除と同等の局所制御が得られる。また、再発症例にも適応できる。(放射線科(画像診断))(耳鼻咽喉科)(放射線科(治療))			
医療技術名	末梢血管奇形(動脈奇形・静脈奇形・リンパ管奇形)に対する血管内治療	取扱患者数	46人
当該医療技術の概要			
切除不能な血管奇形(動脈奇形・静脈奇形・リンパ管奇形)に対し、注射針やカテーテルを用いて硬化療法や血管塞栓術を行い、制御する。(放射線科(画像診断))			
医療技術名	出血性ショックに対する血管内治療	取扱患者数	59人
当該医療技術の概要			
腹部臓器損傷による腹腔内出血、骨盤骨折や腰椎骨折による後腹膜血腫、肋骨骨折による血胸、消化管出血、その他様々な出血性ショック状態に対し、カテーテル的血管造影で出血源を確認し、血管塞栓術・血管攣縮剤動脈内投与など出血量を減少させる。(放射線科(画像診断))(救急科)			
医療技術名	喀血に対する細径カテーテルシステムを用いた気管支動脈塞栓術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要			
従来、喀血に対するカテーテル的気管支動脈塞栓術は5-Fr前後の親カテーテルを用いていたが、大腿動脈穿刺孔の細径化により深部静脈血栓症の合併低下や術後早期離床など更なる低侵襲治療につながる。(放射線科(画像診断))(呼吸器内科)			
医療技術名	内臓動脈瘤および内臓動脈奇形に対する血管内治療	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要			
腹部主要分枝動脈や内腸骨動脈の動脈瘤、肺動脈奇形、腎動脈奇形などに対し、カテーテルを用いて血管塞栓術を行うことで、切除術に比し低侵襲に治療できる。(放射線科(画像診断))			
医療技術名	肝特異性MRI造影剤を用いた肝臓画像評価	取扱患者数	316人
当該医療技術の概要			
びまん性肝疾患や限局性肝疾患に対し肝特異性造影剤(Gd-EOB-DTPA)を用いて質的診断を深める。(放射線科(画像診断))(肝・胆・臓内科)			
医療技術名	強度変調放射線治療	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要			
コンピューター制御で治療ビームの強度を最適化することにより、従来の照射方法よりも低侵襲で高い根治性を実現できる。早期癌のみならず、従来は治療困難であった進行癌に対しても有用性が期待される。(放射線科(治療))			

医療技術名	脳定位放射線治療	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
専用の頭部固定具と治療計画装置を用いて位置精度を高め、病変のみにピンポイントで高線量を照射できる。転移性脳腫瘍のほか一部の原発性脳腫瘍、脳動静脈奇形などに有効な治療法である。1日で治療が終了することも利点である。(放射線科(治療))			
医療技術名	肺定位放射線治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
専用の体幹部固定具を用いて位置精度を高め、病変のみにピンポイントで高線量を照射できる。3cm程度までの肺野病変であれば手術に匹敵する治療成績が期待されている。入院は不要で、1週間の外来通院で治療が終了する。(放射線科(治療))			
医療技術名	核医学による局所脳血流量の定量	取扱患者数	203人
当該医療技術の概要			
I-123 IMP SPECT と持続動脈採血による局所脳血流量(rCBF)の定量は、脳血流シンチグラフィによるイメージのみでは評価が困難な瀰漫性の病変に対して、客観的なデータを供給できる。(放射線科(核医学診療))(神経内科)(脳神経外科)(脳卒中科)			
医療技術名	アセタゾラミド負荷脳血流 SPECT 1日法	取扱患者数	39人
当該医療技術の概要			
脳血流SPECTの新しい画像再構成プログラム(quantitative SPECT: QSPECT)を用いて、同一日に連続して安静時と負荷時のデータを取得し脳循環予備能の評価を行う。(放射線科(核医学診療))(脳神経外科)(脳卒中科)			
医療技術名	脳血流SPECTの画像統計解析	取扱患者数	726人
当該医療技術の概要			
脳血流SPECTの新しい画像統計解析法(easy Z-score Imaging System: eZIS)を用いて、脳表像と断層像について健常者画像データベースに対するZ値で表示する。(放射線科(核医学診療))(神経内科)(脳神経外科)(脳卒中科)			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	51 人	・膿胿性乾癥	3 人
・多発性硬化症	21 人	・広範脊柱管狭窄症	5 人
・重症筋無力症	46 人	・原発性胆汁性肝硬変	34 人
・全身性エリテマトーデス	207 人	・重症急性胰炎	21 人
・スモン	11 人	・特発性大腿骨頭壞死症	43 人
・再生不良性貧血	26 人	・混合性結合組織病	19 人
・サルコイドーシス	31 人	・原発性免疫不全症候群	1 人
・筋萎縮性側索硬化症	27 人	・特発性間質性肺炎	6 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	193 人	・網膜色素変性症	13 人
・特発性血小板減少性紫斑病	78 人	・プリオン病	1 人
・結節性動脈周囲炎	47 人	・肺動脈性肺高血圧症	3 人
・潰瘍性大腸炎	138 人	・神経線維腫症	14 人
・大動脈炎症候群	30 人	・亜急性硬化性全脳炎	1 人
・ビュルガー病	53 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0 人
・天疱瘡	11 人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1 人
・脊髄小脳変性症	37 人	・ライソゾーム病	1 人
・クローン病	96 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ	17 人	・脊髄性筋委縮症	3 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	154 人	・球脊髄性筋委縮症	3 人
		・慢性炎症性脱髓性多発神経炎	3 人
・アミロイドーシス	5 人	・肥大型心筋症	6 人
・後縦靭帯骨化症	34 人	・拘束型心筋症	0 人
・ハンチントン病	1 人	・ミトコンドリア病	6 人
・モヤモヤ病(ウィルス動脈輪閉塞症)	18 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0 人
・ウェグナー肉芽腫症	5 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	2 人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	28 人	・黄色靭帯骨化症	0 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	32 人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	33 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2 人		

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・眼底三次元画像解析	・
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床部門と病理診断部門との症例検討会 1か月 20回程度 臨床部門と臨床検査部門との症例検討会 1か月 14回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 41 例 / 部検率 6.9%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
難治性血管炎に関する調査研究班	種本 和雄	心臓血管外科学	94 万円	(補) 委 厚生労働省
糖尿病患者における心血管イベント発症に関する後ろ向きコホートに関する研究	種本 和雄	心臓血管外科学	20 万円	(補) 委 厚生労働省
慢性腎臓病と心血管病の連関機序の解明:血管透過性制御における内皮細胞機能解析	佐藤 稔	腎臓・高血圧内科学	300 万円	(補) 委 公益財団法人持田記念医学薬学振興財団
酸化ストレスによる糸球体内皮グライコカリックスの減少は糸球体内皮の透過性亢進を惹起する	桑原 篤憲	腎臓・高血圧内科学	10 万円	(補) 委 財団法人地域医学研究基金
Renal denervation reduces glomerular superoxide production and protects from glomerular injury in Dahl salt-sensitive rats.	長洲 一	腎臓・高血圧内科学	10 万円	(補) 委 財団法人岡山医学振興会
経口糖尿病薬による糖尿病からの離脱および動脈硬化抑制研究(PREVENT-J)	加来 浩平	糖尿病・代謝・内分泌内科学	2,160 万円	(補) 委 財団法人循環器研究振興財団
筋疾患に対するマイオスタチン阻害療法の臨床応用基盤の確立	砂田 芳秀	神経内科学	1,300 万円	(補) 委 厚生労働省
福山型筋ジストロフィーおよび類縁疾患のユニークな治療法開発と病態解明	砂田 芳秀	神経内科学	160 万円	(補) 委 厚生労働省
筋ジストロフィーおよびその関連疾患の分子病態解明、診断法確立と薬物治療の開発に関する研究	砂田 芳秀	神経内科学	790 万円	(補) 委 厚生労働省
国内外の精神科医療における疾病分類に関する研究	青木 省三	精神科学	40 万円	(補) 委 厚生労働省
我が国における日本脳炎の現状と今後の予防戦略に関する研究	寺田 喜平	小児科学	130 万円	(補) 委 厚生労働省
日本人女性における乳がん罹患リスクに基づいた効率的な乳がん検診システムの確立に関する研究	園尾 博司	乳腺甲状腺外科学	111 万円	(補) 委 厚生労働省
本邦での乳癌検体におけるホルモン受容体、HER2受容体発現評価の精度管理システム構築に関する研究	紅林 淳一	乳腺甲状腺外科学	120 万円	(補) 委 厚生労働省
動物実験によるb3インテグリン組み換え型培養表皮の有効性の検証	久保美代子	形成外科学	143 万円	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
肝炎ウイルス感染状況・長期経過と予後調査及び治療導入対策に関する研究	日野 啓輔	肝胆膵内科学	150 万円	(補) 委 厚生労働省
血小板低値例へのインターフェロン治療法の確立を目指した基礎および臨床的研究	日野 啓輔	肝胆膵内科学	80 万円	(補) 委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
慢性C型肝炎のインターフェロン療法における幹細胞機能の変化とうつ病発症に関する基礎・臨床連携研究	日野 啓輔	肝胆脾内科学	30 万円	○印 補助 委託 厚生労働省
ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)を用いた悪性胸膜中皮腫に対する効果的治療法の開発研究	平塚 純一	放射線医学 (治療)	400 万円	○印 補助 委託 厚生労働省
HDR組織内照射等の標準化の研究：前立腺がんに対するHDR組織内照射の臨床試験の研究	平塚 純一	放射線医学 (治療)	100 万円	○印 補助 委託 独立行政法人国 立 がん研究センター
突発性造血障害に関する調査研究	通山 薫	検査診断学 (病態解析)	100 万円	○印 補助 委託 厚生労働省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計 4

合計 20

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Internal Medicine 49(20):2195-2202	Efficacy of Rikkunshito, a traditional Japanese Medicine(Kampo), in treating Functional Dyspepsia	Kusunoki Hiroaki	総合臨床医学
Journal of Smooth Muscle Research 46(5):249-258	Simple and non-invasive assessment of the accommodation reflex of the proximal stomach	Kusunoki Hiroaki	総合臨床医学
International Journal of Biological Markers 25(4):207-212	Assesment of degree of health of the stomach by concomitant measurement of serum pepsinogen and serum Helicobacter pylori antibodies	Kazuhiko Inoue	総合臨床医学
Journal of gastroenterology 45(12):1228-1234	Efficacy of mosapride citrate in proximal gastric accommodation and gastrointestinal motility in healthy volunteers: a double-blind placebo-controlled ultrasonographic study	Kusunoki Hiroaki	総合臨床医学
カレントテラピー 28(6):583-584	機能性消化管障害 視えない疾患への挑戦 Key Words 機能性消化管障害の画像検査	楠 裕明	総合臨床医学
Biotherapy 24(4):315-319	【併用療法による新たな展開】癌性腹水に対する zoledronate(Zol)+interleukin(IL)-2局所免疫療法の臨床研究	弘中 克治	臨床腫瘍学
Nippon rinsho. Japanese journal of clinical medicine 68(6):1079-1084	特集: 固形癌の最新治療 治療の新たな取り組み 薬物療法 プロテアソーム阻害薬	山村 真弘	臨床腫瘍学
Cancer Growth and Progression 1 Vol.13 Part2, Springer 285-294	Adoptive Immunotherapy of Cancer Using Autologous Lymphocytes	Yoshiyuki Yamaguchi	臨床腫瘍学
分子細胞治療フロンティア2010 99-104	Chapter3 癌ワクチン・細胞治療 2がんに対するAntigen-Targeting Cell Therapy	山口 佳之	臨床腫瘍学
New England Journal of Medicine 363(5):488	Duration of clopidogrel therapy with drug-eluting stents	Hiroyuki Okura	循環器内科学
Circulation: Cardiovascular Interventions 3(5):484-490	Relationship between arterial and fibrous cap remodeling: a serial three-vessel intravascular ultrasound and optical coherence tomography study	Yamada Ryotaro	循環器内科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eurointervention 6(6):768-772	Assessment of the coronary calcification by optical coherence tomography	Kume Teruyoshi	循環器内科学
脈管学 50(6):747-752	下腿部大伏在静脈本幹への硬化療法を併用した大腿ストリッピング手術の治療成績	田淵 篤	心臓血管外科学
静脈学 22(1):11-16	下腿部大伏在静脈本幹への硬化療法を併用した大腿ストリッピング手術の治療成績	田淵 篤	心臓血管外科学
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 16(2):122-124	Pulmonary Apical Mass, the So-Called Pulmonary Apical Cap, in a 43-Year-Old Woman	Hirami Yuji	呼吸器外科学
Journal of Thoracic Oncology 5(5)	Tumor-Infiltrating Foxp3+ Regulatory T Cells are Correlated with Cyclooxygenase-2 Expression and are Associated with Recurrence in Resected Non-small Cell Lung Cancer	Shimizu Katsuhiko	呼吸器外科学
日本胸部臨床 69(9):874-879	抗真菌薬で縮小した多発性胸壁炎症性偽腫瘍の1例	前田 愛	呼吸器外科学
Annals of thoracic and cardiovascular surgery 16(5):326-330	Induction Chemoradiation Therapy with Cisplatin plus Irinotecan Followed by Surgical Resection for Superior Sulcus Tumor	Katsuhiko Shimizu	呼吸器外科学
Kawasaki Medical Journal 36(3):205-208	A case of simultaneous lung cancer and abdominal aortic aneurysm treated with a two-stage strategy	Takuro Yukawa	呼吸器外科学
Kidney International 77(12):1060-62	Benefits of catalase overexpression in renal proximal tubular cells.	Satoh M	腎臓・高血圧内科学
Diabetologia 53(9):2056-2065	Deterioration of glomerular endothelial surface layer induced by oxidative stress is implicated in altered permeability of macromolecules in Zucker fatty rats.	Kuwabara A	腎臓・高血圧内科学
Current Medicinal Chemistry 17(34):4256-4269	Oxidative stress in diabetic nephropathy.	Kashihara N	腎臓・高血圧内科学
Laboratory Investigation 91(2):190-202	Mitochondrial damage-induced impairment of angiogenesis in the aging rat kidney.	Satoh M	腎臓・高血圧内科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Nephrology Dialysis transplantation 25(9):2889-2898	Renal denervation reduces glomerular injury by suppressing NAD(P)H oxidase activity in Dahl salt-sensitive rats.	Nagasu H	腎臓・高血圧内科学
Kidney and Blood Pressure Research. 34(2):87-96	Comparison of Combination Therapy of Olmesartan plus Azehdipine or Hydrochlorothiazide on Renal and Vascular Damage in SHR/NDmcr-cp Rats.	Nagasu H	腎臓・高血圧内科学
Biochemical and biophysical research communications 407(1):39-43	Overexpression of klotho protein modulates uninephrectomy-induced compensatory renal hypertrophy by suppressing IGF-I signals.	Nagasu H	腎臓・高血圧内科学
臨床検査 54(7):823-827	【排尿障害】最新の治療法—ボツリヌス毒素注入療法、磁気刺激治療について	横山 光彦	泌尿器科学
泌尿器外科 23(8):1175-1176	高リスク前立腺癌に対する高線量率組織内照射(HDR-BT)の検討	常 義政	泌尿器科学
Kawasaki Medical Journal 36(3):179-185	Ph clone recurrence after imatinib discontinuation for chronic myelogenous leukemia patients who had complete molecular remission.	Kondo Toshinori	血液内科学
医学と薬学 64(2):191-197	動脈硬化進展予知因子としてのLDL-C/HDL-C比の有用性—2型糖尿病患者におけるIMT肥厚との関連—	菅田 有紀子	糖尿病・代謝・内分泌内科学
Diabetes, Obesity and Metabolism 12(4):341-347	Improved glycaemic control with minimal hypoglycaemia and no weight change with the once-daily human glucagon-like peptide-1 analogue liraglutide as add-on to sulfonylurea in Japanese patients with type 2 diabetes.	Kaku Kohei	糖尿病・代謝・内分泌内科学
Journal of the neurological sciences 291:121-123	Hereditary sensory ataxic neuropathy associated with proximal muscle weakness in the lower extremities	Murakami T	神経内科学
Brain research 1348:222-225	The transthyretin gene is expressed in Schwann cells of peripheral nerves	Murakami T	神経内科学
Electromyography and clinical neurophysiology 50:269-275	Comparison of the sensitivities of plantar nerve conduction techniques for early detection of diabetic sensory polyneuropathy	Hemmi S	神経内科学
Internal medicine 49:2693-2696	Rapid Screening for Japanese Dysferlinopathy by Fluorescent Primer Extension	Hayashi S	神経内科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Experimental neurology 227:195-202	Placental growth factor-2 gene transfer by electroporation restores diabetic sensory neuropathy in mice	Murakami T	神経内科学
J Neurol Sci. 290:37-40	The combination of elevated BNP and af as a predictor of no early recanalization after iv-t-pa in acute ischemic stroke.	Kimura K	脳卒中医学
J Neurol Sci. 295:53-57	Early stroke treatment with IV t-PA associated with early recanalization	Kimura K	脳卒中医学
Eur Neurol. 64:258-264	IV t-PA thrombolysis in patients without major arterial occlusion seems to be safe and effective	Kimura K	脳卒中医学
Eur Neurol. 63:331-336	Recanalization within one hour after intravenous tissue plasminogen activator is associated with favorable outcome in acute stroke patients.	Kimura K	脳卒中医学
Eur Neurol. 63:221-226	Diameter of the basilar artery may be associated with neurological deterioration in acute pontine infarction.	Aoki J	脳卒中医学
J Neuroimaging. 20:130-133	Detection of right-to-left shunts may be associated with body size.	Iguchi Y	脳卒中医学
Intern Med. 49:543-547	Hyper-acute stroke patients associated with aortic dissection.	Iguchi Y	脳卒中医学
Am J Cardiol. 106:1129-1133	Annual incidence of atrial fibrillation and related factors in adults.	Iguchi Y	脳卒中医学
Eur Neurol. 64:140-144	Acute stroke patients have occult malignancy more often than expected.	Uemura J	脳卒中医学
Intern Med. 49:1515-1519	Peripheral arterial atherosclerosis in patients with extracranial, not intracranial, arterial stenosis.	Watanabe M	脳卒中医学
J Neurol Sci. 293:39-44	FLAIR can estimate the onset time in acute ischemic stroke patients.	Aoki J	脳卒中医学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cerebrovasc Dis. 31:51-56	Utility of the Kurashiki Prehospital Stroke Scale for Hyperacute Stroke.	Iguchi Y	脳卒中医学
J Neuroimaging. 10:1552-6569	Evaluation of Cerebral Hemorrhage Volume Using Transcranial Color-Coded Duplex Sonography	Matsumoto N	脳卒中医学
Eur J Neurol. 18:165-159	Plasma brain natriuretic peptide predicts death during hospitalization in acute ischaemic stroke and transient ischaemic attack patients with atrial fibrillation.	Shibasaki K	脳卒中医学
Int J Cardiol. 31:51-56	HbA1c and atrial fibrillation: A cross-sectional study in Japan.	Iguchi Y	脳卒中医学
J Neurol Sci. 302:81-84	Large numbers of stroke physicians should be used to treat large numbers of stroke patients with IV rt-PA	Iguchi Y	脳卒中医学
J Neuroimaging. 10:1552-6569	Combined TCD and MRA Screening for significant Siphon Portion of Internal Carotid Artery (S-ICA) Stenosis.	Aoki J	脳卒中医学
Intern Med. 50:141-3	Paradoxical brain embolism with klippel-reunaunay syndrome.	Sakai K	脳卒中医学
J Neurol Sci. 304:11-116	Higher LA pressure may prevent opening of patent foramen ovale in acute ischemic stroke patients with atrial fibrillation.	Aoki J	脳卒中医学
Cerebrovasc Dis. 31:435-441	Intravenous Thrombolysis Based on diffusion-Weighted Imaging and Fluid-Attenuated Inversion Recovery Mismatch in Acute stroke Patients with Unknown Onset Time.	Aoki J	脳卒中医学
Intern Med. 50:413-9	Prior Oral Antithrombotic Therapy is associated with Early Death in Patients with Supratentorial Intracerebral Hemorrhage	Yamashita S	脳卒中医学
J Neurol Sci. 304:35-39	Serial changes in ischemic lesion volume and neurological recovery after t-PA therapy.	Kimura K	脳卒中医学
J Neurol Sci. 304:40-43	Spontaneous intra-cranial arterial dissection frequently causes anterior cerebral artery infarction	Shimoyama T	脳卒中医学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur Neurol. 65:233-238	Kurashiki Prehospital Stroke Subtyping core (KP3S) as a Means of Distinguishing ischemic from Hemorrhagic Stroke in Emergency Medical Services	Yamashita S	脳卒中医学
Eur Neurol. 65:245-249	Does ICA Occlusion Frequently Have Intracerebral Hemorrhage after IV Tissue Plasminogen Activator Therapy for Ischemic Stroke?	Kimura K	脳卒中医学
Eur Neurol. 65:291-295	Clinical and MRI Scale to Predict Very Poor Outcome in Tissue Plasminogen Activator Patients.	Kimura K	脳卒中医学
Cerebrovasc Dis Extra 1:28-35	The Kurashiki Prehospital Stroke Scale is a Prehospital Scale That Can Predict Long-term Outcome of Patients with Acute Cerebral Ischemia.	Iguchi Y	脳卒中医学
J Neurol Sci. 307:55-59	Admission hyperglycemia and serial infarct volume after t-PA therapy in patients with and without early recanalization.	Kimura K	脳卒中医学
臨床神経学 50:547-555	経静脈的血栓溶解療法中の経頭蓋超音波検査をもちいた連続モニタリング	青木 淳哉	脳卒中医学
神経内科 3:70-73	片側舞踏アテトーゼ運動を呈した大脳皮質の心原性脳塞栓症の1例	植村 順一	脳卒中医学
脳卒中 32;719-724	「一過性脳虚血発作」の新展開と治療 TIAの臨床像と診断	木村 和美	脳卒中医学
脳卒中 33:1-8	テレビ電話機能付き携帯末端を用いた遠隔診療支援システムの臨床応用	井口 保之	脳卒中医学
脳神経外科ジャーナル 19:616-622	コイル塞栓術後の脳動脈瘤手術の成績と注意点	宇野 昌明	脳神経外科学
The Mt. Fuji Workshop on CVD 28:61-63	【脳内出血のすべて 2009】被殻出血における内視鏡下血腫除去術 一フリーhandテクニックによる穿刺方法一	横須賀 公彦	脳神経外科学
脈管学 50:303-308	頸動脈内膜剥離術の適応と手術手技	宇野 昌明	脳神経外科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本頭痛学会誌 37(3):338-342	EBP(硬膜外自家血注入)で自家血がクモ膜下腔に拡がった低髄液圧症候群の1症例	横須賀 公彦	脳神経外科学
精神神経学雑誌 112(4):360-365	「心の危機状態」(At Risk Mental State)における精神療法的アプローチ	松下 兼宗	精神科学
保健室 147:3-13	不登校を考える	青木 省三	精神科学
総合臨床 59(5):1209-1214	児童思春期におけるうつ病診療	高橋 優	精神科学
精神療法 36(4):466-471	行動療法における初期面接－強迫性障害を中心に－	中川 彰子	精神科学
精神療法 36(4):513	初回面接をめぐって	青木 省三	精神科学
臨床精神病理 31(2):103-110	青年期の自己破壊を考える 日本精神病理・精神療法学会 第32回大会 特別講演	青木 省三	精神科学
こころの科学 153:83-87	診療録を少しでも治療的に利用するため 臨床を書く 私はこう書いている③	青木 省三	精神科学
産婦人科治療 101(4):347-352	うつ病の治療法 特集：産婦人科医が知っておきたい“こころの健康”的知識	宮崎 哲治	精神科学
こころの科学増刊 100-107	統合失調症における治療合意へのプロセス	村上 伸治	精神科学
臨床心理学 10(6):925-929	精神科臨床におけるスーパーヴィジョン	青木 省三	精神科学
臨床精神医学 39(12):1589-1593	リエンジン精神医療で心がけていること－進行がん患者を例として－	山田 了士	精神科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
こころの科学 155:15-19	うつ病と家族の支援	青木 省三	精神科学
こころの科学 155:56-60	総合病院で家族を支援する	松下 兼宗	精神科学
小児科診療 73(11):2055-2058	10年間の抗体変動から推定した水痘・帯状疱疹ウイルスとの感染接触状況	寺田 喜平	小児科学
胸部外科 63(6):438-439	漏斗胸に対するNuss手術一特に手技上の工夫と中期成績	植村 貞繁	小児外科学
小児内科 42(6):867-870	胸郭変形(漏斗胸)	植村 貞繁	小児外科学
小児外科 42(7):767-771	99mTc-フェチニ酸を用いた消化管機能検査	三宅 啓	小児外科学
小児外科 42(8):886-888	子宮捻転を伴う卵巣囊腫茎捻転症 子宮の色調が悪いときは?	三宅 啓	小児外科学
形成外科 53(9):979-984	成人女性の漏斗胸患者におけるNuss法の長期成績	植村 貞繁	小児外科学
PHARMSTAGE (5):38-40	臨床医から見る分子標的治療薬のメディカルニーズー乳がんー	紅林 淳一	乳腺甲状腺外科学
内分泌外科 27(2):103-106	当科における甲状腺濾胞型乳頭癌の検討	山本 裕	乳腺甲状腺外科学
最新医学 65(6):1400-1410	乳癌培養細胞を用いた前臨床研究	紅林 淳一	乳腺甲状腺外科学
BMC cancer 10:586	Preferential antitumor effect of the Src inhibitor dasatinib associated with a decreased proportion of aldehyde dehydrogenase 1-positive cells in breast cancer cells of the basal B subtype.	Kurebayashi Junichi	乳腺甲状腺外科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Breast cancer 18(1):56-63	New diagnostic method for breast cancer based on clinical mammographic data and its clinical validation.	Nomura Tsunehisa	乳腺甲状腺外科学
臨床外科 66(2):191-195	【T4の癌 腫瘍別特性と治療戦略】乳癌	紅林 淳一	乳腺甲状腺外科学
Arthritis and Rheumatism 62(5):1319-1328	Involvement of the renin-angiotensin system in the development of vascular damage in a rat model of arthritis: effect of angiotensin receptor blockers.	Sakuta T	リウマチ・膠原病学
整形外科 61(13):1417-1421	多発性筋肉内脂肪腫の1例	大成 和寛	脊椎・災害整形外科学
日本整形外科学会雑誌 84(5):312-314	腰椎変性すべり症に対する非固定除圧術	長谷川徹	脊椎・災害整形外科学
Kurume Medical Journal 57(3):43-49	Surgical Results of Percutaneous Suction spiration and Drainage for Pyogenic pondylitis	Noriyuki Ando	脊椎・災害整形外科学
Journal of Spine Research 1(9):1740-1743	硬膜管背側脱出型腰椎椎間板ヘルニアに対してMEDを施行した1例	大成 和寛	脊椎・災害整形外科学
中国・四国整形外科学会雑誌 22(1):79-84	Locking Compression Plateの適応と限界	香川 洋平	骨・関節整形外科学
中国・四国整形外科学会雑誌 22(2):421-425	Locking Compression Plate(LCP)を用いた不安定型鎖骨骨幹部骨折の治療成績	黒田 崇之	骨・関節整形外科学
Journal of gastroenterology and hepatology 25(5):913-918	Evaluation of duodenal hypersensitivity induced by duodenal acidification using transnasal endoscopy	Ishii Manabu	消化管内科学
消化器内視鏡 22(5):841-845	経鼻内視鏡を用いた胃運動機能検査	春間 賢	消化管内科学
The GI Forefront 6(1):9-12	超音波内視鏡検査が術前診断に有効であった隆起型早期胃癌	春間 賢	消化管内科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
川崎医学会誌 36(3):187-193	早期胃癌に対するESDの適応に関する検討 外科手術例からの解析	中山 義之	消化管内科学
消化管の臨床 16:73-777	検診を契機に診断された小腸悪性リンパ腫の1例	小坂 奈美	消化管内科学
Digestive and Liver Disease 43(1):54-59	Expression of Sonic hedgehog (SHH) and CDX2 in the columnar epithelium of the lower oesophagus	Yamanaka Yoshiyuki	消化管内科学
臨床栄養 116(6):648-656	脂質代謝異常症	是永 匡紹	肝胆脾内科学
肝胆脾 60(4):643-648	特集 肝疾患における血液生化学検査、肝炎ウイルスマーカー、腫瘍マーカーの見方「C型肝炎ウイルスマーカー」 抗原・抗体系	仁科 惣治	肝胆脾内科学
Liver international : official journal of the International Association for the Study of the Liver 30(5):683-692	Hepatitis C virus protein and iron overload induce hepatic steatosis through the unfolded protein response in mice	Nishina Sohji	肝胆脾内科学
生物学に関する試験論叢 (25):114-121	肝発癌における鉄代謝異常と脂質代謝異常のクロストーク(平成20年度両備櫻園記念財団研究助成金による研究報告)	日野 啓輔	肝胆脾内科学
日本医師会雑誌 139(2):301-305	特集 鉄過剰症—その病態と治療 C型慢性肝炎・非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)における鉄代謝と酸化ストレス	日野 啓輔	肝胆脾内科学
日本内科学会雑誌 99(6):1248-1254	特集 鉄代謝の臨床鉄欠乏と鉄過剰:診断と治療の進歩 III. 鉄過剰「慢性肝障害における鉄代謝異常と除鉄療法」	日野 啓輔	肝胆脾内科学
消化器内科 50(6):595-600	特集 C型慢性肝炎のpeg-IFN/RBV療法無効例の対策peg IFN/RBV療法無効例への工夫 — 再燃・null例への再治療の試み —	是永 匡紹	肝胆脾内科学
CLINICIAN 57(8):20-25	高齢者における肝庇護療法についての再考	日野 啓輔	肝胆脾内科学
Progress in Medicine 30(9):2358-2363	慢性肝疾患(肝炎・肝硬変)における食餌療法—鉄制限食餌療法について—	是永 圭子	肝胆脾内科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
INNERVISION 25(11):72-77	高輝度病変に対する後血管相(Kupffer相)の観察について	是永 圭子	肝胆脾内科学
消化器内科 51(4):416-422	特集 B型肝炎ウイルス再活性化の問題点と対策 B型肝炎再活性の現状と対策	是永 匡紹	肝胆脾内科学
肝胆脾 61(5):853-860	特集・肝疾患の地域連携医療—肝疾患診療連携拠点病院、公費助成制度、治療計画の運用— B型肝炎とC型肝炎治療薬	富山 恒行	肝胆脾内科学
Liver Forum in Kyoto 第12回学術集会記録集 14-19	研究奨励報告「C型肝炎難治例への対策」:C型慢性肝炎の鉄過剰が誘導するミトコンドリア障害とウイルス自然免疫排除機構の解析	是永 匡紹	肝胆脾内科学
Hepatic Medicine 3:45-52	Type 1 interferon receptor in peripheral blood mononuclear cells may predict response to intra-arterial 5-fluorouracil + interferon therapy for advanced hepatocellular carcinoma	Yasuyuki Tomiyama	肝胆脾内科学
癌の臨床 56(4):275-281	StageIV胃癌に対する姑息的切除術を先行した化学療法症例の検討	東田 正陽	消化器外科学
消化器外 33(5):895-896	胃瘻カテーテル事故抜去	岡 保夫	消化器外科学
日本臨床外科学会雑誌 71(6):1584-1588	完全内臓逆位を伴った直腸癌に対し腹腔鏡下直腸低位前方切除を施行した1例	奥村 英雄	消化器外科学
エキスパートが伝える食道外科 up-to-date 271-279	放射線療法および化学療法 B. 根治的化学放射線治療	平井 敏弘	消化器外科学
Esophagus 8 125	A case of spontaneous submucosal dissection of the esophagus	Masaharu Higashida	消化器外科学
眼科手術 23(2):249-261	緑内障手術—術後早期の管理方法	家木 良彰	眼科学
Clinical Ophthalmology 4:1025-1028	Optic disc measurements using the Heidelberg Retina Tomograph in amblyopia.	Miki Atsush	眼科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical Ophthalmology 4:1061-1064	Retinal nerve fiber layer thickness in recovered and persistent amblyopia.	Miki Atsush	眼科学
Clinical Ophthalmology 4:1193-1199	Optic nerve head analysis of superior segmental optic hypoplasia using the Heidelberg retina tomograph.	Miki Atsush	眼科学
眼科手術 23(4):537-540	新しい硝子体手術トロッカー・カニューラシステム	桐生 純一	眼科学
Kawasaki Medical Journal 36(4):257-274	Is free and open source software for making web sites on the Internet available for computerization of hospital support functions?	Wakamiya Shunji	眼科学
臨床眼科 65(3):295-299	近視性脈絡膜新生血管における蛍光眼底造影所見と光干渉断層計所見の比較	水川 憲一	眼科学
眼科臨床紀要 4(3):222-225	浅前房眼に対する白内障手術の合併症についての検討	家木 良彰	眼科学
口腔・咽頭科 23(2):219-225	口腔・中咽頭癌Ⅲ・Ⅳ期に対する動注化学生放射線療法の治療成績	秋定 健	耳鼻咽喉科学
臨床放射線 55(8):1009-1017	鼻副鼻腔悪性黒色腫に対するホウ素熱中性子捕捉療法の治療効果	森田 倫正	耳鼻咽喉科学
New Challenges in Neutron Capture Therapy 2010 25-29	BNCT for advanced or recurrent head and neck cancer.	Aihara Teruhito	耳鼻咽喉科学
Otology & neurotology : official publication of the American Otological Society, American Neurotology Society [and] European Academy of Otology and Neurotology 32(11):147-151	Round window membrane in Ménière's disease: a human temporal bone study.	Yoda Shigetoshi	耳鼻咽喉科学
European journal of radiology Epub ahead of print	Gd-EOB-DTPA enhanced MR imaging: Evaluation of biliary and renal excretion in normal and cirrhotic livers	Tamada Tsutomu	放射線医学 (画像診断)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ningen Dock 25(6):61-67	Proposal of an approach to quality control in health check-up facility: Introduction of plan-do-check-act cycle through Hazard Analysis Critical Control Point implementation	Shinji Kojima	健康管理学
Molecular Medicine Reports 3(3):531-535	Alterations in bone turnover by isoflavone aglycone supplementation in relation to estrogen receptor α polymorphism	Katsuyama Hironobu	公衆衛生学
Kawasaki Medical Journal 36(3):173-178	Adverse events of 2009 novel pandemic influenza(A/H1N1) vaccination - comparison with seasonal and simultaneous influenza vaccination -	Matsushima Masahiro	公衆衛生学
Leukemia 24:748-755	Lenalidomide induces cell death in an MDS-derived cell line with deletion of chromosome 5q by inhibition of cytokinesis.	Matsuoka Akihito	検査診断学 (病態解析)
日本検査血液学会雑誌 11:177-183	血液細胞における核膜蛋白lamin A/Cの発現とその局在	山本 博美	検査診断学 (病態解析)
Kawasaki Medical Journal 37(1):19-27	The impact of serum soluble interleukin-2 receptor levels on the diagnosis of malignant lymphoma	TSUJIOKA Takayuki	検査診断学 (病態解析)
血液フロンティア 20(5):717-723	特集「骨髓不全治療の新しい展開～新規免疫抑制剤と経口鉄キレート剤の導入～」5. 低リスク骨髓異形成症候群に対するレナリドマideの役割	通山 薫	検査診断学 (病態解析)
最新医学 65:2531-2536	特集 骨髓異形成症候群(MDS)「レナリドミドによるMDSの治療」	通山 薫	検査診断学 (病態解析)
血液・腫瘍科 61:652-659	特集「骨髓異形成症候群(MDS)―病態の解明と克服に向けた進歩」5q一症候群の分子病態	松岡 亮仁	検査診断学 (病態解析)
日本臨床外科学会雑誌 71(12):3144-3147	腹部超音波で術前診断した原発性小腸軸捻転の1例	飯田 あい	検査診断学 (内視鏡・超音波)
Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 298:G970-G975	Effect of daikenchuto(TU-100)on gastrointestinal and colonic transit in humans	Manabe Noriaki	検査診断学 (内視鏡・超音波)
Modern Physician 31(3):279-281	なぜ胃や腸は痛くなるのか?一機能性消化管疾患の病態と診療ー3.機能性消化管疾患の自然史と予後	今村 祐志	検査診断学 (内視鏡・超音波)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Medical Molecular Morphology 43:67-73	Molecular morphological approach to the pathological study of development and advancement of human breast cancer.	Moriya Takuya	病理学

計 1

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

合計155

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 角田 司
管理担当者氏名	病院事務部長 難波 徹

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録			
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療資料部	外来・入院診療録は電子カルテ X線フィルムはP A C S（医用画像保管・配信システム） (※H21.12.31以前は紙カルテで保管)
	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課 病院事務部病院庶務課	
	高度の医療の提供の実績	病院事務部医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院事務部医事課	
	高度の医療の研修の実績	病院事務部病院庶務課	
	閲覧実績	病院事務部医事課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	病院事務部医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院事務部医事課 薬剤部	
	第規 一則 号第 に一 掲条 げの る十 体一 制第 の一 確項 保各 の号 状及 況び 第九 条の 二十三 第一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院事務部病院庶務課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	病院事務部病院庶務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	病院事務部病院庶務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	病院事務部病院庶務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	院内感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	病院事務部病院庶務課 薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	病院事務部病院庶務課 薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	病院事務部病院庶務課 MEセンター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	MEセンター

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長 難波 徹
閲覧担当者氏名	病院庶務課長 大賀 孝子、医事課長 大塚 京子
閲覧の求めに応じる場所	病院庶務課（応接室）

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延	0 件
閲 覧 者 別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地 方 公 共 団 体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹 介 率	59.7 %	算 定 期 間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算	A：紹 介 患 者 の 数		14,239 人
出	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		14,046 人
根	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		3,411 人
拠	D：初 診 の 患 者 の 数		39,076 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第13-2)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 川崎医科大学附属病院における医療事故防止に係る安全管理の基準、規範となるべき事項を定め、解説して医療安全管理への取り組みの目的を明らかにするものである。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年42回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理に関する委員会は、まず院内の取り組みを総括する委員会として「病院医療安全管理委員会」を設置し、その下部委員会として、各部門から選出されたリスクマネージャーでリスクマネジメントの具体的な実務及び、医師、看護師、その他各職員への情報公開を図る「リスクマネージャー連絡会議」を位置付けている。また、医療事故の発生事例に対処する「事故調査委員会」「病院医療委員会」を設置している。<ul style="list-style-type: none">(1) 病院医療安全管理委員会：23回開催 病院全体の立場から事故防止に関する諸問題を検討して決定する組織である。 医療安全問題に関する現状の把握と院内情報公開に関する事。医療事故の予防と対策に関する事。安全医療を提供するためのマニュアルに関する事。医療安全管理の教育、研修と啓発活動に関する事。啓発活動としてニュースレターの発行、医療安全推進週間のポスター等の作成、医療安全カレンダーの作成。(2) リスクマネージャー連絡会議：10回開催 病院医療安全管理委員会で審議された事項を通達し各部門に啓発する。 6つのワーキンググループを形成して定期的に会議（月1、2回）を行い、インシデント報告書のレビューを行う。インシデント報告内容については定期的にデータを評価する。再調査が必要な事例や、ニュースレターの原稿作成の基となる情報や職員への通達、啓発が必要な事項があれば各ワーキンググループから委員会議事録を持って医療安全委員会に要望・進言をする。年1回はワーキンググループが月単位で医療安全パトロールを実施し、ワーキング活動の検証を行う。(3) 病院医療委員会：3回開催 医療事故発生への対処を適切かつ円滑に実施するために病院運営委員会の小委員会で対処方法に関する事項を審議する。(4) 事故調査委員会：1回開催(5) 医薬品安全管理委員会：1回開催(6) 医療機器安全管理委員会：4回開催	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年20回

- 研修の主な内容：
 - ・川崎医科大学附属病院のための基本的な考え方及び具体的な方策について職員に周知徹底するため、平成22年度は次の研修を実施した。
1. 4月リスクマネージャー連絡会：50名、リスクマネージャーの交代について、ニュースレター確認表の電子カルテ画面掲載、2月医療安全パトロール「手術・処置・損傷」ワーキンググループ実施結果報告
 2. 5月リスクマネージャー連絡会：58名、平成22年度リスクマネージャー・ワーキンググループと医療安全管理者、医療安全管理委員会メンバーの交代、3月医療安全パトロール「検査・輸血」ワーキンググループ実施結果報告、医療安全管理・リスクマネージャーの役割について、CVC研修会参加報告
 3. 職員教育講演会5月「平成21年度ワーキンググループ活動報告」（前編） 1,240名
 4. 6月リスクマネージャー連絡会：63名、医療安全マニュアル総論版の一部改訂について（病院医療安全管理委員会規程、医療安全管理部規程）、医療安全管理体制・リスクマネージャーの役割について、医療事故・紛争対応研究会関東・甲信越セミナー参加報告
 5. 7月リスクマネージャー連絡会：63名、第1回医療安全パトロール医療安全管理委員会実施結果報告、人工呼吸器研修会実施報告、医療安全マニュアル総論版の一部改訂について（CV穿刺について）、平成21年度下半期インシデント報告のまとめ、日本医療マネジメント学会第7回岡山県支部学術集会・夏期セミナー「医療と法律」の案内
 6. 8月 夏期セミナー「医療と法律」自由参加 第1部（模擬裁判） 107名
第2部 医療トラブルの実際とその対応 85名
 7. 9月リスクマネージャー連絡会：69名、9月職員職員教育講演会のアンケート結果報告、中途採用者研修会結果報告
 8. 職員教育講演会9月「平成21年度ワーキンググループ活動報告」（後編） 1,153名
「医療機器安全管理委員会の活動報告、MRI検査を安全に行うために」
 9. 9月「人工呼吸器講習会」 796名
 10. 10月リスクマネージャー連絡会：62名、8月医療安全パトロール「内服・外用・注射ワーキンググループ」実施結果報告、医療法第25条に基づく立ち入り検査の報告、私立医科大学相互ラウンドについて
 11. 職員教育講演会9月「当院における医療安全管理・院内感染管理の取り組み」
中途採用者・職員教育講演会前半未受講者対象 322名
 12. 職員教育講演会10月「徳島大学病院における褥瘡対策の現状と問題点」 1,039名
 13. 11月リスクマネージャー連絡会：64名、医療安全パトロール医療安全管理委員会実施結果報告、私立医科大学相互ラウンド（来訪）結果報告
 14. 職員教育講演会11月「手指衛生の基本」「ハイリスク薬の取り扱い」 1,146名
 15. 平成22年4月1日採用医師及び中途採用者医療安全管理研修会 12月 12名
 16. 職員教育講演会1月「電子カルテと個人情報保護について」
「当院における輸血療法の現状と課題」 1,013名
 17. 1月リスクマネージャー連絡会：64名、11月医療安全パトロール「手術・処置・損傷」ワーキンググループ実施結果報告、私立医科大学相互ラウンド結果報告、平成22年度4月採用医師・中途採用医師研修会結果報告
 18. 職員教育講演会2月「事例から見た安全対策」 1,027名
 19. 平成22年4月1日採用医師及び中途採用者医療安全管理研修会2月 19名
 20. 2月リスクマネージャー連絡会：66名、医療安全マニュアルの一部改訂（休日・夜間の重大事故発生時における連絡体制、患者等の影響レベル）、平成22年度4月採用医師・中途採用者研修会結果報告
 21. 職員教育講演会3月「問題行動患者対応について」
 22. 3月リスクマネージャー連絡会：69名、医療安全マニュアルの一部改訂（医療事故・インシデント・アクシデント報告ルートの概念図）、リスクマネージャーの交代、1月医療安全パトロール「器械・器具」ワーキンググループ実施結果報告

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無)
- ・ その他の改善の方策の主な内容 :
 1. ニューズレターによる情報の提供・広報・啓発活動 (2回/月 発行)
 2. インシデント・アクシデント防止のために必要時注意・啓発目的でDVD・標語・ポスターの作成
 3. リスクマネージャーウォーキンググループ活動・医療安全パトロールからの情報・アクシデントの分析から対策案等をマニュアル化して医療安全マニュアルに追加する

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) (1名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (4名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有) ・ 無

- ・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (2) 名
- ・ 活動の主な内容 :
 1. 病院医療安全管理委員会と各部門から選出されたリスクマネージャーと連携を図り、効果的具体案を検討して、要望、意見、質問に対して対応する。
 2. 日本医療評価機構の認定更新のために患者の権利と診療の質および安全確保、医療の質と安全のためのケアプロセスについての評価や医療安全管理指針の改訂について検討する。
 3. インシデント報告書に対するフィードバック→毎日の各部署の巡視、コミュニケーションと現状の把握のため、病院医療安全管理委員会、リスクマネージャーで1回/月病棟巡視を実施。
 4. 医療安全マニュアル総論版（ポケットタイプ第4版）の改訂準備。
 5. 安全医療を提供するための医療マニュアル（総論版、各診療科版）の改訂とその周知を図る。
 6. 医療安全に関する職員教育講演会の計画、実施、評価。
 7. 医療安全管理部発行の広報誌「ニュースレター」のより一層の充実をはかり、全職員に啓発活動を行う。
 8. 医療安全管理部の活動をホームページで紹介し、内容の見直しを行う。
 9. 医療安全管理推進週間の継続、毎年実施するイベントについて計画を立案。
 10. 新入職員に関する医療安全教育の計画、実施。
 11. 医療安全カレンダーを作成し啓発活動を行う。
 12. インシデントをリアルタイムに把握し対応する。
 13. 事故発生緊急報告書（アクシデント報告書）に対応する。
 14. 病院医療安全管理委員会、リスクマネージャー連絡会議の資料を作成し、運用する。
 15. 種々の安全管理に関する広報活動を行う。

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有) ・ 無
--------------------------------------	-----------

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 院内感染対策の基本的な考え方、院内感染対策委員会とその基本事項、研修に関する基本方針、感染症発生状況の報告に関する基本方針、院内感染発生時の対応に関する基本方針、当該指針の閲覧およびその他院内感染対策推進のための必要な基本方針について記載している。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 職種横断的に委員がおり、院内感染対策室の活動状況、ICTの活動、耐性菌の発生状況、抗菌使用状況、問題のある例などが報告され、協議検討されている。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 1回は外部講師による講演会、1回は院内講師で特にワーキンググループ活動で成功例について発表してもらっている。また中途採用者と未受講者を対象にした講演会を実施した。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)・ その他の改善の方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 毎週、院内の耐性菌発生状況が報告され、それによってICTのラウンドとは別に病棟ラウンドしている。またMRSAなど耐性菌の多い病棟や救命救急センター、クリーンルームのある病棟ではワーキンググループを作って活動し、MRSAが1/3に減少させるなど効果をあげている。	

(様式第13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(<input checked="" type="radio"/> ・無)
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年5回
③ 研修の主な内容： ・ 新人薬剤師に向けて、新入職員研修プログラムに添った研修実施 (H22.4) ・ 新人医師に向けて、医薬品の安全な取扱いに関する研修会 (H22.4) ・ 新人看護師に向けて、医薬品の安全な取扱いに関する研修会 (H22.4) ・ 1~2年目の看護師対象に「取り扱いに注意を要する医薬品」の研修会開催 (H22.11に2回) ・ 職員教育講演会「ハイリスク薬の取り扱い」 (H22.11)	
④ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
⑤ 手順書の作成 (<input checked="" type="radio"/> ・無)	
業務の主な内容： ・ 業務実施確認チェックリストを利用した医薬品の安全使用確認を半年に1回実施 ・ 医薬品管理チェックリストを用いた病棟、外来処置室における安全使用確認を半年に1回実施	
⑥ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
⑦ 医薬品に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="radio"/> ・無)	
⑧ その他の改善の方策の主な内容： ・ 医薬品安全性情報が発出された品目について、当該製剤を処方する診療科、医師に対して個別に情報を提供し対策を検討する。サラゾスルファピリジン (2010.8)、リラグルチド (2010.10)、シクロスボリン (2011.1)、小児用肺炎球菌ワクチン及びヒブワクチン (2011.3)、ピオグリタゾン (2011.6)、ダビガトラン (2011.6) ・ 院内で発生したインシデント・アクシデント報告は医療安全管理委員会経由で注射・内服・外用ワーキングチームで対応を検討し、更に医療安全管理委員会に上申、審議の結果を各職種から構成されるリスクマネージャー会議に提出され情報共有する。	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(<input checked="" type="radio"/> ・無)
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年33回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・新規に導入された医療機器について実施（2011年度：人工呼吸器R100、血液浄化装置Σ、レーザー治療器ほか）・定期的な研修としては人工呼吸器や除細動器、透析装置、保育器などの使用方法、トラブル対応などについて実施・各部署から個別研修依頼への対応・新入職員（看護師・研修医ほか）研修：輸液ポンプシリンジポンプ、人工呼吸器など	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 （<input checked="" type="radio"/>・無）・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・MEセンターによる中央管理機器（人工呼吸器、除細動器、保育器、血液浄化関連装置、体外循環装置、輸液シリンジポンプなど）・放射線関連機器については、診療放射線技師による日常点検及び、メーカーにて定期点検を実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （<input checked="" type="radio"/>・無）・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・情報収集の方法 外部メーカや業者からの入手、PMDA及び厚生労働省等からの入手（メール登録含む）、医療機器安全管理委員会及び病院医療安全管理委員会などの開催時における各部門からの報告による入手。・情報の周知方法 院内職員教育講演会等による職員への情報提供（9月開催、資料配布含む）、院内電子掲示板を利用してMEセンターから職員へ周知、医療機器安全管理委員会及び病院医療安全管理委員会の定期的な開催による報告と情報収集、ニュースレター（医療安全管理部発行・隔週発行）回覧による職員への周知。・自主回収の情報収集及び改善のための方策の実施 10件該当あり（人工呼吸器、IABP、超音波診断装置、放射線診断装置、医療材料など）	